

～ これまでの環境省サンゴ群集修復事業の概要と成果 ～

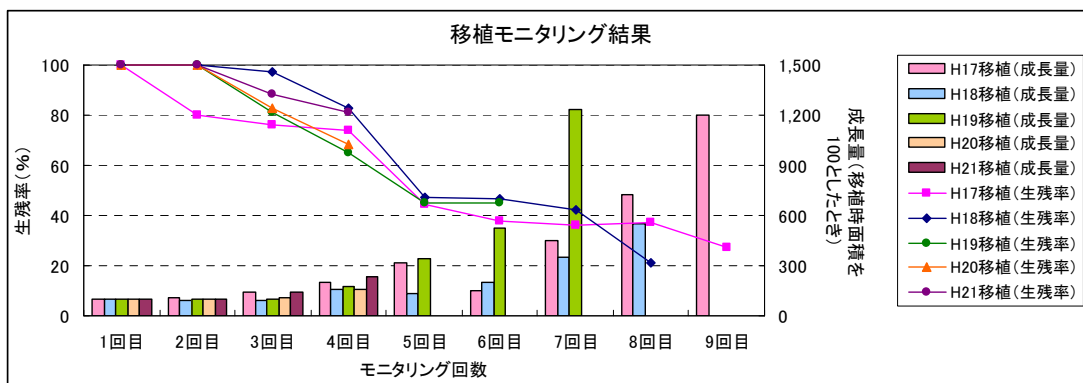
有性生殖法を用いたサンゴ移植

(1) 事業結果

- ア) 採苗数：平成 16 年より実施⇒これまで計 415, 380 個の着床具を設置、25, 383 個の種苗を採苗。
- イ) 採苗率：着床具の改良や設置場所の開拓等により採苗率は向上傾向。  
 ※平成 21 年度：16.5%、平成 22 年度：11.3%  
 ※近年の採苗率は、経験的に移植に十分と考えられる採苗率 20%に近づいている。
- ウ) 採苗場所の選定：採苗場所はモニタリング調査の結果を踏まえ、北礁や名蔵湾などを追加。
- エ) 採苗した種類：自然の着生状況であるため、多様なサンゴ類が着生する状況にある。
- オ) 移植数：平成 17 年より実施  
 ⇒移植密度：約 10 個/m<sup>2</sup> で計 23, 748 個の種苗を移植：面積約 2, 275m<sup>2</sup> (0. 23ha)
- カ) 移植場所の選定：移植場所は黒島東を中心に 2～4 地点に設定。
- キ) 種苗構成種：ミドリイシ属、ハナヤサイサンゴ科、アナサンゴモドキ属など。
- ク) 移植サンゴについて、移植後 1 年間は 4 回/年、その後は年 1 回のモニタリングを行っている。  
 ①移植場所の概況、②長径、③死滅部の状況、④生残率、⑤種苗流出率、  
 ⑥活性（白化）状況、⑦破損状況、⑧食害状況、⑨海藻類の繁茂状況、  
 ⑩堆積状況、⑪魚類等の棲みこみ状況、⑫成長量
- ケ) 生残率：2 年以上経過した移植サンゴは約 20～40%が生残している。  
 ⇒台風時の海底攪乱による砂礫の被覆、オニヒトデの食害により低下。
- コ) 成長量：全ての生残移植サンゴにおいて長径は大きくなる傾向が確認されている。  
 ⇒成長したサンゴには魚類の棲みこみ、平成 17 年移植サンゴからは産卵の様子が確認された。
- カ) 移植技術向上のため、着床具、ケース、補助具などの検討・改良を行った。

(2) 事業の成果

- ア) 採苗率の向上、移植種苗数の増加、採苗/移植場所の適切な選定など一定の成果があった。
- イ) 修復に用いる種は、自然に着床した種構成と同様の種構成となっていると考えられる。
- ウ) モニタリングによって、移植サンゴのおおよその成長状況を把握することができた。



- エ) 移植サンゴの魚類の棲みこみや産卵の確認など、一定の成果があった。
- オ) 重要海域調査によって、移植元・移植地の状況を把握することができた。
- カ) 移植サンゴの産卵が確認された。

